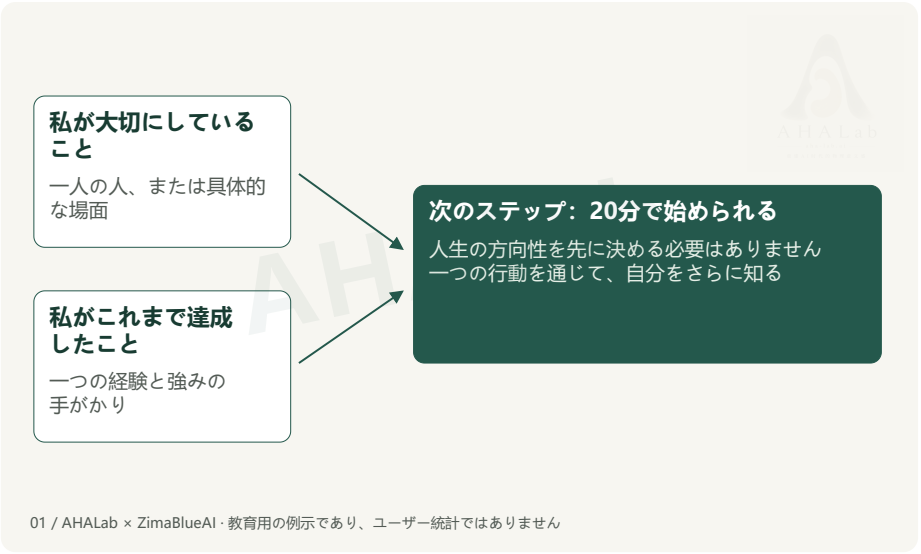
関心 / 00—02 分

もう一歩、取り組んでみたいことは何ですか

まず自分が大切にしていることを一つ考え、この事例を参考に方法を探します。



> 30秒かけて、自分が達成した小さなことを一つ考え、20分かけて知りたいと思う場面を一つ書き出します。

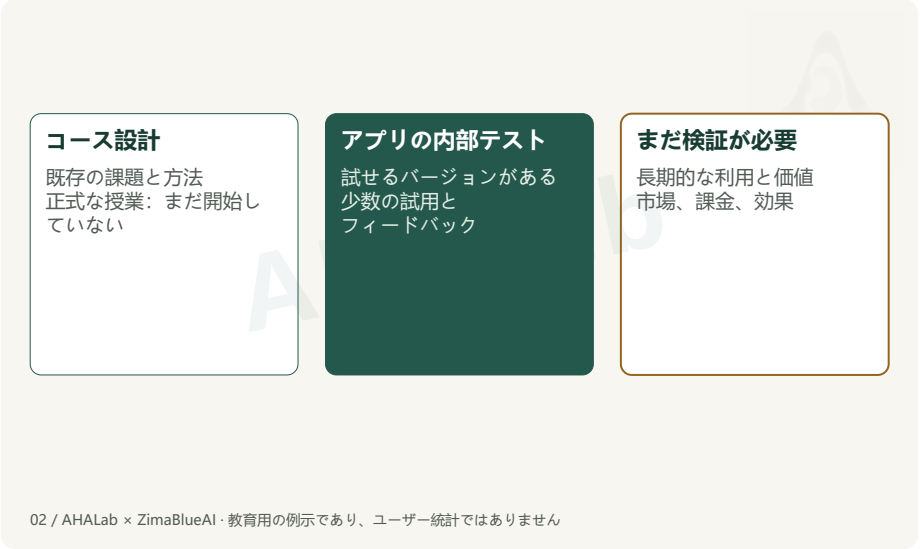
- 身近な人、学校、環境、趣味、あるいはあなたが気になっている命の営みなど、すべてが出発点になります。
- このアプリに興味がないという方も大丈夫です。最後に、あなたが自分でやりたいと思う小さな一歩だけ残しておきましょう。

まずは各自で書き、一人で完結しても大丈夫です。必要になったらオンラインで交流し、固定のペアを待つ必要はありません。

事例の範囲 / 02〜05分

まだ手探りを続けているプロジェクト

シニア向けコースはまだ開講していませんが、アプリはすでに少数のユーザーに試してもらっています。



> これらの状態のうち、すでに起きているものと、まだ検証が必要なものはどれですか？

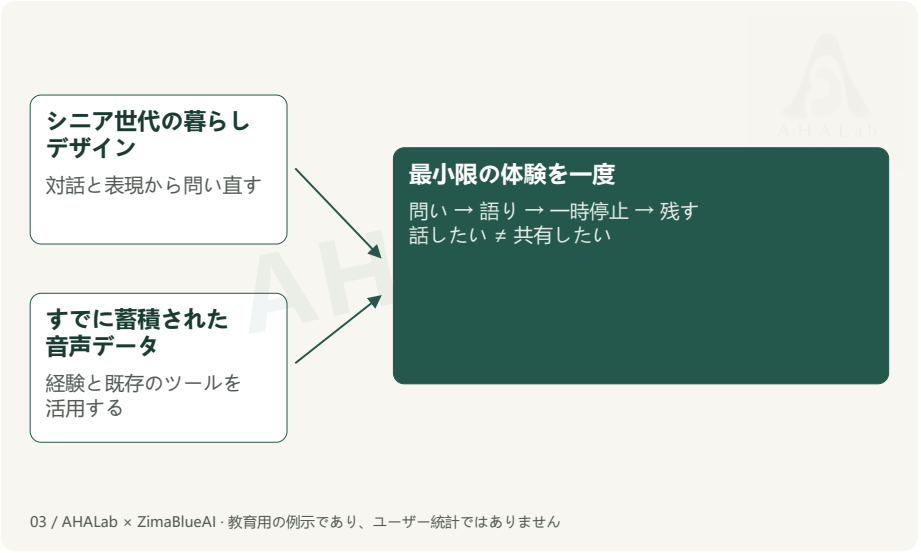
- コースは設計済みですが、まだ教室で実際に起きた成果とは言えません。
- 試してみたいという人がいるだけでは、市場が見つかったとは言えません。
- 事例は非公開です。今日はプロセス、選択、方法について共有します。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

発想の広げ方 / 05〜08分

その人のペースで話せる時間をつくる

まず大きな方向性を決めて、そこから具体的な小さなことを一つ試してみてもいいですね。



> 「話したい」と「家族に見せたい」は、同じ同意ですか?

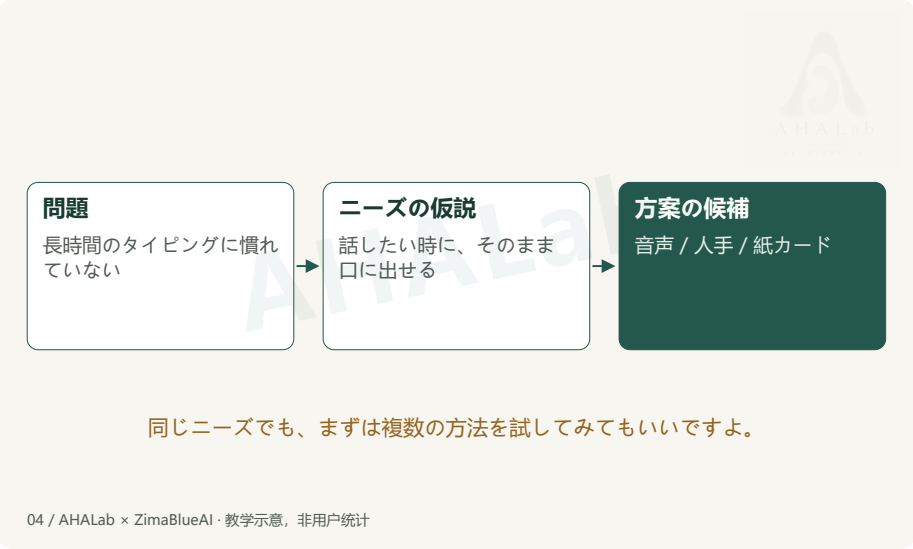
- 関心：もっと気軽に話せる場所を増やせないか?
- ニーズの仮説：文章にまとめなくても、話せる。止まる場所や共有は自分で決める。
- 第一歩：質問—回答—一時停止—記録を残す。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

問題からニーズへ / 08—11 分

不満、必要なこと、機能を分けて書く

第一原理の出発点：目標、事実、制約、仮説を区別する。



> 「アプリを作る」をそのままニーズとして扱っていいですか?

- 観察：長時間のタイピングに慣れない方がいる。具体的な対象者は、あとで確認しましょう。
- ニーズの仮説：話したいときに、まず文章に整える必要はなく、同意とデータの範囲を守ります。
- 「必ずアプリでなければならない」への疑問：紙のカード、対面での聞き取り、音声など、まずは試せます。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

活動1 / 11—16 分

気づいた問題を、確かめられる仮説にする

誰 × シーン × 障壁 × 望ましい変化。



> 約5分で行動カードAを書きます。その場でニーズが必ず成立することを証明する必要はありません。

- まず現象を書き、次にニーズの一文に直します。
- 推測を1つ囲み、それを覆す可能性のある証拠を書きます。
- 独学の場合は、まずヒントに従って自己確認をします。任意のパートナーがいる場合は、互いに確認し合うこともできます。

一人で完結し、既存の代替手段と接点のある人を記入してください。必要なら、具体的な質問を持ってオンラインで相談してください。

プロダクトの核 / 14〜19分

何を大切にするかが、選び方を変える

シェアのレイアウトが魅力的に見えても、なぜまずゆっくり話したいのでしょうか?



原則 → 一度の選択 → 証拠による修正を許容

06 / AHALab × ZimaBlueAI · 教育用の例示であり、ユーザー統計ではありません

> 何を大切にしたいですか? それに基づいて、まず何をし、何を保留にしますか?

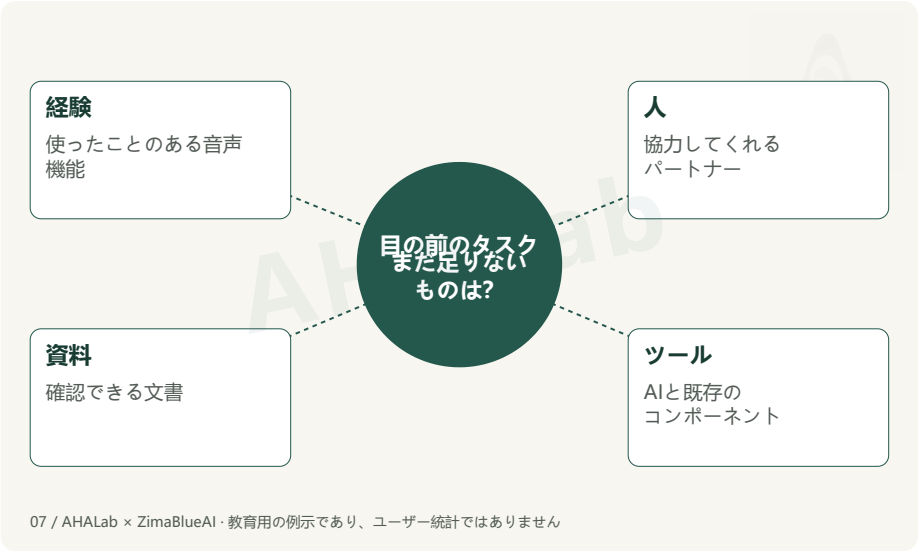
- 守るもの：今の表現、本人のリズム、共有の選択。
- 一旦保留にするもの：素早くデモするために、複雑なフローを追加すること。
- これは今の時点での選択です。新しい証拠があれば、再考することもできます。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

蓄積の活用 / 19〜22分

これまでの経験や知識を、次の一歩に使う

経験、資料、ツールを、目の前の一つのことに使います。



07 / AHALab × ZimaBlueAI · 教育用の例示であり、ユーザー統計ではありません

> すでに持っているリソースを2つ、まだ足りない情報を1つ挙げてください。

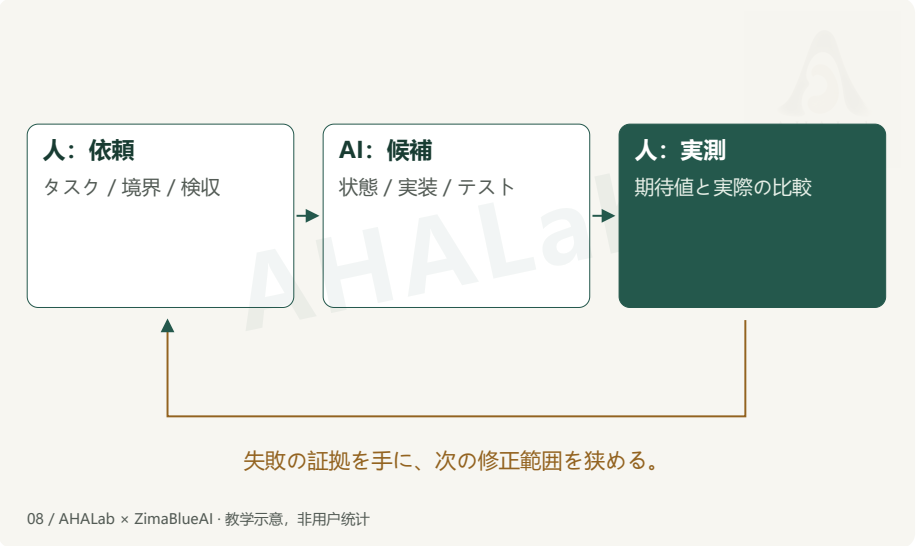
- 既存の音声機能、実践経験、個人の強みは、目の前のタスクとつなげることができます。
- AIは案を出し、プロトタイプを書き、エラーチェックを手伝うこともできます。
- 情報のギャップは、出典を探し、自分でテストして結果を報告する必要があります。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

AI開発 / 22〜26分

プラットフォームのプログラミングを学び終える前でも、試せる

まず、今回何をするのか、そして完成後にどう確認するのかを明確にしてください。



> AIが「完了」と言ったとき、あなたが実際に確認すべき手順はどれですか?

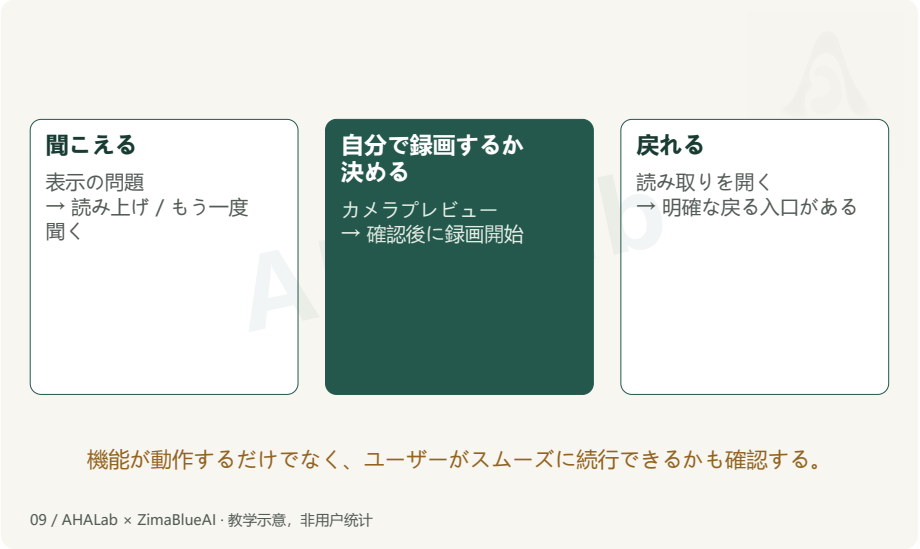
- AIに伝えること：目標、既知の事実、実際の制約条件、検証が必要な仮説、そして受け入れ基準。
- AIにまず状態、不明点、テスト方法を列挙させ、それから実装案を出させる。
- 合成データを使い、開始—一時停止—保存の流れを自分で一度体験する。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

困難に直面 / 26—29 分

何度も使ってみることで、少しずつ進む

動作するようになった後も、読み上げ、権限、戻る操作、録画の選択が残っています。



> 小さな詰まりが一つ、ユーザーの継続意欲をどう変えますか?

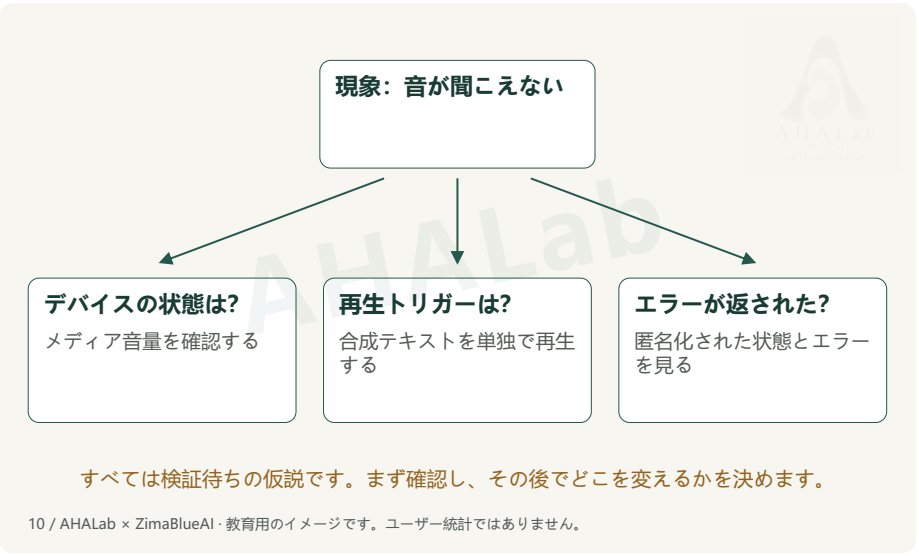
- ユーザーはまず問題を聞き、空白画面に直面しない。
- カメラを開いたらまずプレビューし、明確に確認してから録画する。
- 読み取りページを開いた後でも、戻れる場所が分かるようにします。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

活動2 / 29〜33分

AIは「直りました」。でも、スマートフォンから音が出ない

既知 → 未知 → 最小限の確認 → 単一項目の変更 → 再テスト。



> タスクカードB：次の確認事項は何ですか?

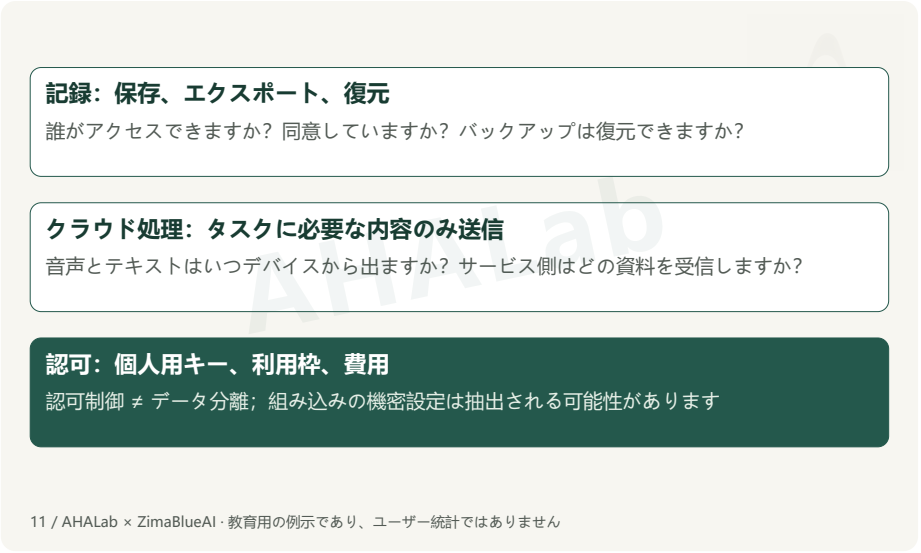
- 期待と実際の結果を書き、単に「使えない」とだけ書かないでください。
- 検証可能な仮説を一つ出し、最小限の確認を設計してください。
- 失敗の証拠を残してください。同時にすべての場所を変更しないでください。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

安全と責任 / 33〜37分

試せるようになっても、リスクを伝える責任は残る

記録、許可、呼び出しコストには、それぞれ責任者がいます。



> まずどのデータを減らし、どの権限を制限しますか？

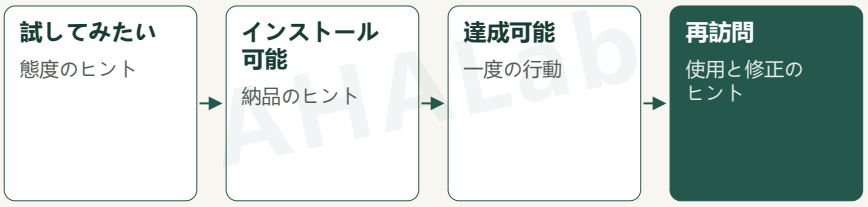
- 合成データで一通り試します：どこに保存され、誰がアクセスでき、復元できるか？
- 個人用キーは認可と利用枠に使用；データ分離には別途制御が必要です。
- クライアントに組み込まれた機密設定には抽出リスクがあり、クローズドソースだけで安全性を保証することはできません。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

軽い試行 / 37〜40分

インストール用ファイルを送るだけでは、届け終わらない

招待 → インストール → 小さなタスク完了 → 再訪問。



転換率はありません；各ステップを実際に観察する必要があります。

12 / AHALab × ZimaBlueAI · 教育用の例示であり、ユーザー統計ではありません

> 最初の試行では、「使いやすいか」だけでなく、どこでつまずいたかを観察します。

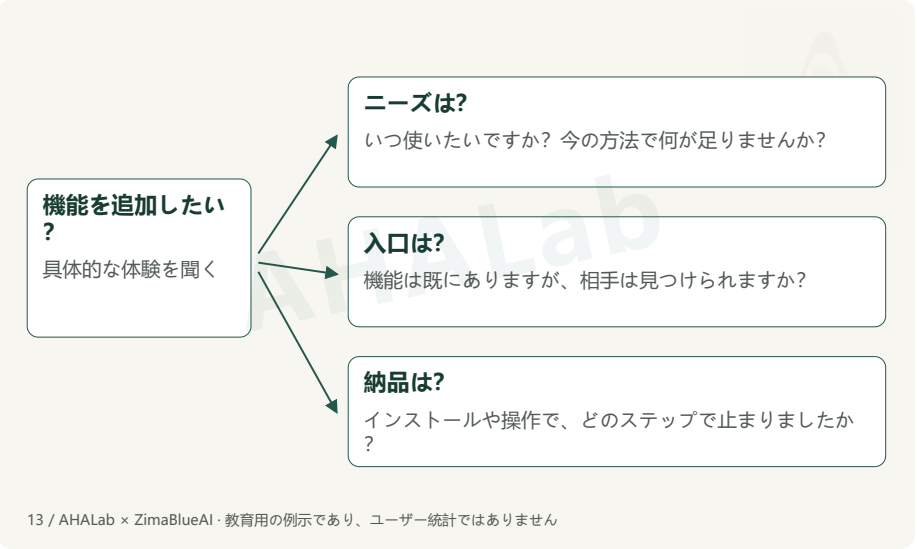
- 試してみようという意気持ちは、一つのヒントです。
- インストールファイルや入口が、最初の壁になることがあります。
- 一度にお願いするのは、本人が選んでできる小さなタスク一つだけです。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

フィードバック / 40〜44分

機能を増やす前に、実際に何があったかを聞く

まず、どこがしっくりこなかったか聞きます。問題が解決しなかったのか、入口が見つからなかったのか、そもそも使えなかったのか。



> 次にどのように観察すれば、この3つの状況を区別できますか?

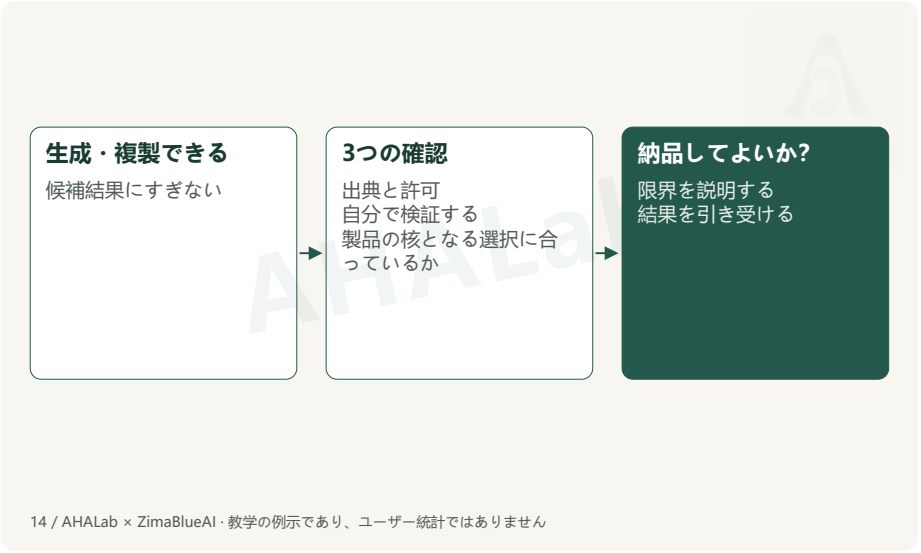
- 文字を変えたいのに場所が見つからない：まず入口が見つかりにくいことを確認します。
- 新しいトピックが欲しいと思っていたが、既に選択肢があった：ヒントが明確か、選択肢が目立ちやすいかを確認します。
- 記録の習慣が違う：ユーザーのシナリオを再理解する必要があるかもしれません。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

活動3 / 44〜47分

ツールが模倣できる時代に、つくる人は何を決めるのか

方法を学び、許可を確認し、自前の資産を使い、結果に責任を持ちます。



> ツールの動作を1つ選び、許可、出典、そして自分で検証すべき結果を明確に説明します。

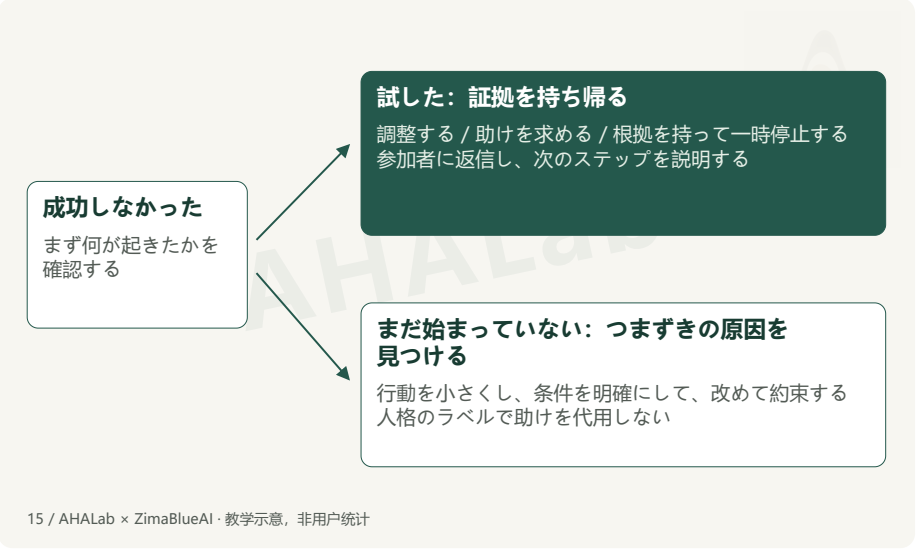
- REA と replica-skill は読み取り専用の観察資料として扱います。インストールや実行はしません。
- ツールのライセンスは、対象コード、ブランド、ユーザーデータの許可とは異なります。
- 外見が似ていても、自分のユーザー、選択と放棄、検証について説明する必要があります。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

実行と失敗 / 47〜50分

小さな約束を準備し、中断しても戻ってこられるようにする

小さな目標を設定し、1つの干渉を減らし、中断後に再調整します。



> 次につまずいたとき、まずどの条件を調整し、いつ再開しますか?

- 時間と場所、開始のヒント、完了の証拠を決め、休憩とコストの上限を残す。
- うまくいかなければ現象を持ち帰る；まだ始めていなければつまずきを確認し、早めに助けを求めるか、約束をやり直す。
- 自律は実行を助け、第一性原理は方向の確認を助ける；どちらも成功を保証しない。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

活動四 / 50—57 分

遠くを見ながら、次の一歩は小さくする

自分の強みを一つ使い、一つの推測を明確にし、達成できる試みを一度安排する。



> タスクカード C を完了：48時間以内に開始できる最初の検証。

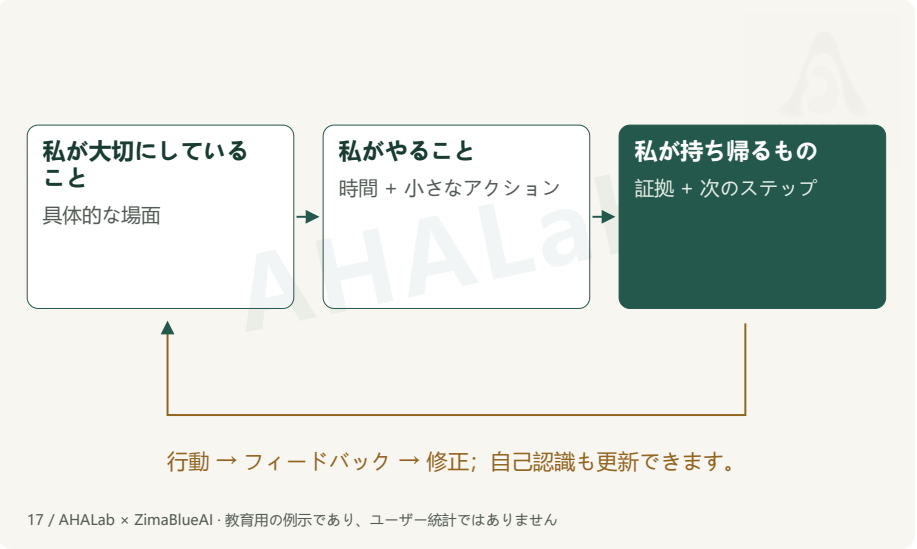
- 2分で対象と仮説を書き、2分で行動と証拠を書く。
- 2分間、ヒントに従って自己点検し、1分間で修正します。パートナーがいる場合は、任意で互いに見合えます。
- 既存の強みを一つ借りて、開始条件とつまずいた場合の対処法を書き出します。

コストの上限、募集方法、振り返りの時間を自分で決め、先生はオンラインでアドバイスします。
実際に誰かがお金を払うかは、まだ確認が必要です。

持ち帰る行動 / 57〜60分

次は、実際に起きたことを持ち寄る

一度の行動とフィードバックを通じて、自分の考えをさらに修正します。



> 3つの文を書き、振り返りの時間を設定します。必要に応じて、他者にチェックを依頼します。

- 最後に3つの文を書きます：私が大切にしていること、いつ何をやるか、次に何を携えてくるか。
- 48時間後に開始したか確認し、7日後に証拠と修正を確認します。
- あなたが気にしていることから始め、ツールを活用しつつ、自分の選択が他者にどう影響するかにも配慮します。

まずは一人で一つの判断と一つの証拠を書き、必要になったらオンラインで交流してください。

AHALab × ZimaBlueAI · aha-lab.ai

AHALab × ZimaBlueAI · 公開学習教材 · 授業での試行は未実施 · 匿名化した学習事例。アプリのソースコードは含みません